

整容の手術が行われる。

3. 酒皰様皮膚炎 rosacea-like dermatitis ★

同義語：口囲皮膚炎（perioral dermatitis），ステロイド誘発性皮膚炎（steroid-induced dermatitis）

Essence

- ステロイド外用薬を顔面に長期使用することで，酒皰に類似した紅色丘疹，びまん性潮紅，痤瘡が発生する。
- 治療はステロイドを中止したうえで，尋常性痤瘡に準じる。

症状

中年女性に好発し，不適切なステロイド外用による副作用の代表である。ステロイド外用部位に一致して，紅斑，毛細血管拡張，丘疹，膿疱，びまん性潮紅，^{らくせつ}落屑を生じ，瘙痒や灼熱感を伴う（図 19.11）。皮疹が口囲に限定されているものを口囲皮膚炎（perioral dermatitis）と呼ぶ。

病因

ステロイド外用薬の長期使用による表皮萎縮，血管拡張などの副作用が基本。ステロイド外用薬が，炎症などによって刺激された角化細胞の TLR2 を過剰発現させ，自然免疫系を介して発症するという説もある。

治療

ステロイド外用薬を中止する。これによりリバウンド（反跳現象）が起こり，発赤腫脹の増悪，びらんが数週から数か月持続する場合がある。この症状を緩和するため尋常性痤瘡に準じた治療を行う。タクロリムス外用薬も有効であるが，逆に酒皰様皮膚炎を増悪させることがあり注意を要する。リバウンドが激しい場合は，ステロイド外用を再開し，使用量やランクを徐々に下げていく。

4. 顔面播種状粟粒性狼瘡 ^{ぞくりゅう} ^{ろうそう} lupus miliaris disseminatus faciei ; LMDF ★

同義語：acne agminata

Essence

- 主に顔面（とくに下眼瞼^{がんけん}など）に常色ないし紅色の2～5 mm 大の小丘疹が多発する疾患。自覚症状はない。

図 19.11 酒皰様皮膚炎（rosacea-like dermatitis）
1 か月間ステロイドを外用しつづけた患者に生じた皮疹。びまん性潮紅，落屑，瘙痒，灼熱感を伴う。



図 19.12 顔面播種状粟粒性狼瘡 (lupus miliaris disseminatus faciei)

顔面の左右対称に生じる常色ないし紅色の2～5 mm 大の多発性小丘疹。丘疹の一部は瘢痕を残し治癒する。

- 類上皮細胞肉芽腫と中心壊死の病理組織像を呈する。結核との関連性は否定されている。
- 治療はテトラサイクリンの少量内服など。

症状

性差はなく、20～30歳代に好発する。顔面、とくに下眼瞼、頬部、鼻背に、左右対称性に発生する。常色ないし紅色の2～5 mm 大の小丘疹が多発し、膿疱を混じる（図 19.12）。自覚症状はほとんどないか、軽度の痒疹を伴う。硝子圧法で黄白色の小結節を認める。1～数年の経過で陥凹性の瘢痕を残して治癒する。瘢痕は最終的に目立たなくなることが多い。

病因・病理所見

病理組織学的所見から従来は皮膚結核疹の一種と考えられていたが、現在では否定されている。毛包やその内容物に対する肉芽腫性の反応によって発生するとされ、肉芽腫を伴う酒皸の亜型と考えられている。病理所見では、類上皮細胞肉芽腫と中心壊死を認める。

鑑別診断

汗管腫、稗粒腫、尋常性痤瘡、サルコイドーシスなどとの鑑別を要する。

治療

テトラサイクリンや DDS の少量内服が一般的である。

C. 毛髪疾患 disorders of hairs

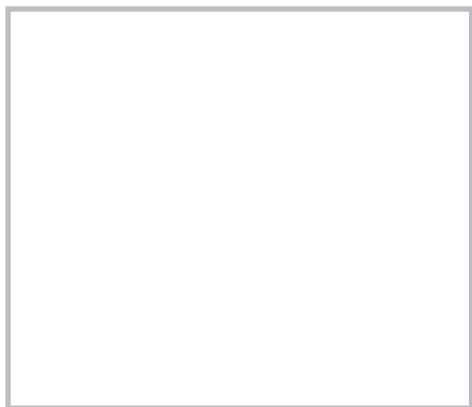


図 19.13① 円形脱毛症 (alopecia areata)
境界明瞭な脱毛斑。活動性のものでは脱毛辺縁の毛髪が容易に脱落する。

1. 円形脱毛症 alopecia areata ★

Essence

- 突然、円形の境界明瞭な脱毛斑が発生。
- 数か月で自然治癒することが多いが、多発する場合は汎発性脱毛症へと進行することがある。
- 治療はステロイド外用や PUVA など。

症状

若年者に好発する。大部分は頭髪に生じるが、眉毛、ひげ、四肢の毛などに認められる場合もある。前駆症状や自覚症状を欠き、突然に境界鮮明な脱毛斑が出現する（図 19.13）。病変